

福岡都市圏の精神科系病院で約10%の病床数

創業理念「患者はすべて受け入れる」を堅持 今秋メドにグループ旗艦病院を新築移転

医療法人 済世会 河野病院グループ



河野正美理事長(医学博士)

緑豊かなシティビューの各病室

現在、この夏から秋にかけての開院に向けて急ピッチの建設工事が進むのが「河野粕屋病院」(福岡県糟屋郡宇美町)の新築移転である。一九八二年に緑豊かな砥石山の中腹にオープンした同病院は、一・二万坪の敷地内のかつて噴水や植物園、芸術療法棟があった場所に既存病院の約一・六倍の延べ床面積(約2243坪)をもつ新病院(地上5階建地下1階)が建設される。「現在の病院は開院後、取り壊して駐車場にし、二二五床の病室のほとんどが眺望に優れたシティビューとなります。病室

からヤードームや福岡タワーなどが広がり、福岡空港から離陸する飛行機の航跡ははっきり見えるほどです」と河野理事長は語る。全館バリアフリーはもちろん、個室を多くした病室面積も新築病院の規格である一人あたり六・四㎡以上を確保し、廊下幅も車椅子が二台通れる一・八㎡以上と広い。「うつ病などストレスケアで短期入院する患者さんは緑豊かで風光明媚な病室で治療に専念し、今後増加が予想される認知症の患者さんもこの病室でゆっくり入院生活を過ごしていただきたいと思っています」(同)とその狙いを語る。

「にじいろプロジェクト」を展開

河野理事長の父親で衆議院議員を通算八期務めた故・河野正氏が四六年に地域の要望に応え福岡県篠栗町に診療所を開院したのが最初で、五一年に(医)済世会を設立した。「父は法人名のお

り世を濟い、どんな患者も断らず受け入れる創業理念を生涯堅持し続けました。理事長就任前は、法人名の変更も考えていましたが、父が亡くなるとその意志がよく理解できるように、現在では事あるごとに創業理念に立ち返れ、と医療スタッフや職員に発破をかけています」と、二〇〇五年七月に二代目理事長に就任した河野氏はその理念の重さを改めて実感したという。また、精神疾患の患者に笑顔が少ないことを医師の立場で体験してきた河野理事長は、就任と同時に退院後のあたたかも雨あがりの明るい社会復帰に響いて「にじいろプロジェクト」を医療法人全体で展開。現在では医療スタッフや職員にも「にじいろの社会復帰へ向けての治療や運営が浸透し、同グループのホスピタルスローガンとなっている。

築中の「河野粕屋病院」に加え、一〇年二月には福岡市中心街に「薬院河野クリニック」(外来・福岡市中央区)を開院。同クリニックは、例えばうつ病で三つの病院を退院した患者が、社会復帰に備え通院しながらケアを図る医療施設でもある。このように四つのグループ病院の有機的な連携により、同法人は福岡都市圏の精神科系病院で最大の、約10%の病床数(計569床)をもつ。新築中の「河野粕屋病院」が開院後は、グループの旗艦病院として精神疾患や認知症などの患者を中心に、特別な事情がない限り断らない創業理念を堅持(同)しながら、さらにグループの病床稼働率を上げ、地域になくはならない「済世」の医療活動をより鮮明にしていく方針だ。



新築移転先の「河野粕屋病院」(完成予想図)